

ミドリヒョウモンが20年ぶりに群れて



広町自然観察の会

自然観察の会が9月21日（日）に催したチョウの月例観察会で、ミドリヒョウモンを確認、撮影しました。

世界的なチョウの専門家である原田基弘さんによると、ミドリヒョウモンは神奈川県内でも、丹沢山塊あたりでは日常に見られ、20年以上も前、鎌倉など平地の都市部に大挙して降りてきたことがあるそうです。

ミドリヒョウモンは畑で七分咲きのソバの花に群がっていて、6匹まで数えることができました。花に止まっている姿では、茶の濃淡しか見えませんが、羽裏に緑の模様があります。幼虫の時期にはスマレの葉を食べて生長します。

25日（木）9時～、里山さんぽ「秋の雑木林観察」があります。お天気が心配ですが、ソバは花盛りを迎えているでしょうから、天気によければ、特徴ある姿を見ることができそうです。

旅するアサギマダラも1年ぶりに

21日の観察会では、アサギマダラも見ました。畑の南側の斜面で、センニンソウの白い花の蜜を吸っていました。上村さんがアサギマダラを見たのは、ことしは初めてだそうです。

アサギマダラは「旅をするチョウ」として知られ、沖縄、南九州などで幼虫期を過ごし、春に日本列島を縦断して北日本や中部地方の高地に向かいます。そして秋に南の暖地に戻ります。関東には、長旅の途中の春と秋の2回、姿を見せます。

広町緑地ではことし5月、御所川沿いの園路に死骸が落ちていました。生きている姿は、上村さんが去年の春、見て以来です。

広町緑地で見られるチョウは40数種で、神奈川県内では箱根・仙石原の湿性花園と並ぶチョウの観察ポイントです。ミドリヒョウモンとアサギマダラの現認は、緑地の自然の豊かさを、さらに強く印象づけています。

